

科目名 (科目番号)	病態生理学	教員名 杉野一行	学科等	理学療法	選択	履修年次	2
	(時間割参照)		曜日・時限等	時間割表参照		単位数	1
			授業形態	講義	オフィスアワー	月～金18～19時A309	
授業概要	様々な疾患や障害の原因と、誘発される症状の発症の仕組みについて、代表的な疾患を取り上げ、生理学的に解説する。検査値の意味や治療の考え方についても触れる。						
目的・目標	目的:器官系毎の機能と全身への寄与について、代表的な疾患を例に解説する。 目標:①代表的な疾患や障害の機序や症状を生理学的視点から説明できる。 ②代表的な疾患や障害の治療やリハビリテーションの考え方を理解できる。						
準備学習	毎回の授業の到達目標と学習内容を十分に理解しておくこと。						
授業計画	回	授業項目	到達目標・学習内容				
	1	運動器系疾患の病態	到達目標:運動器系疾患の病態を解剖生理学に基づいて理解する。 学習内容:筋骨格系の障害とその仕組みについて学習する。				
	2	感覚系疾患の病態	到達目標:感覚器系疾患の病態を解剖生理学に基づいて理解する。 学習内容:特殊感覚・体性感覚の障害とその仕組みについて学習する。				
	3	末梢神経系疾患の病態	到達目標:末梢神経の障害に伴う疾患の病態を解剖生理学に基づいて理解する。 学習内容:脳神経・脊髄神経障害の症状とその仕組みについて学習する。				
	4	中枢性運動障害の病態	到達目標:中枢性運動障害の病態を解剖生理学に基づいて理解する。 学習内容:脊髄・脳幹・間脳・小脳・大脳基底核の障害とその仕組みについて学習する。				
	5	高次脳機能・精神疾患の病態	到達目標:高次脳機能障害・精神性疾患の病態を解剖生理学に基づいて理解する。 学習内容:大脳皮質の疾患・障害とその仕組みについて学習する。				
	6	呼吸系疾患の病態	到達目標:呼吸器系疾患の病態を解剖生理学に基づいて理解する。 学習内容:気道・肺・呼吸筋・呼吸中枢の障害とその仕組みについて学習する。				
	7	循環系疾患の病態	到達目標:循環系疾患の病態を解剖生理学に基づいて理解する。 学習内容:心臓・血管の障害とその仕組みについて学習する。				
	8	血液系疾患の病態	到達目標:血液系疾患の病態を解剖生理学に基づいて理解する。 学習内容:血球・血漿・造血・凝固系の障害とその仕組みについて学習する。				
	9	免疫系疾患の病態	到達目標:免疫系疾患の病態を解剖生理学に基づいて理解する。 学習内容:アレルギーを含む免疫系の障害とその仕組みについて学習する。				
	10	消化器系疾患の病態	到達目標:消化器系疾患の病態を解剖生理学に基づいて理解する。 学習内容:上部・下部消化管および消化系付属臓器の障害とその仕組みについて学習する。				
	11	泌尿器系疾患の病態	到達目標:泌尿器系疾患の病態を解剖生理学に基づいて理解する。 学習内容:腎臓・尿路系の障害とその仕組みについて学習する。				
	12	内分泌系疾患の病態	到達目標:内分泌系疾患の病態を解剖生理学に基づいて理解する。 学習内容:ホルモンの異常、内分泌腺の障害とその仕組みについて学習する。				
	13	生殖系疾患の病態	到達目標:生殖系疾患の病態を解剖生理学に基づいて理解する。 学習内容:内外生殖器の障害、不妊症の仕組みについて学習する。				
	14	遺伝性・先天性疾患の病態	到達目標:先天性疾患の病態を解剖生理学に基づいて理解する。 学習内容:染色体、遺伝子、発生の障害とその仕組みについて学習する。				
	15	腫瘍の病態	到達目標:腫瘍の病態を解剖生理学に基づいて理解する。 学習内容:腫瘍の仕組みと、種々の癌治療の原理について学習する。				
成績評価の方法・基準	各回毎のオンラインレポート100%(対面・オンライン共通)						
教科書							
参考図書	超ビジュアル病態生理学 トートラ「人体の構造と機能」 「病態生理学」		吉岡俊正・著 桑木共之ら・編訳 田中越郎・著		メジカルビュー社 丸善 医学書院		
教員からのメッセージ	「生理学」または「人体の機能」が基本となります。授業の進度、その他必要に応じて授業内容や順番が変更されることがあります。取り上げる疾患は年度により異なる場合があります。 オンライン授業に伴い授業計画に変更がある場合は、オンラインクラスで変更のシラバスを周知いたします。						